

[掲載紙] 朝日新聞「上州経済風信」

[掲載日] 2013年4月18日

[テーマ] 県内経済 持ち直しの芽 ―雇用・賃金ベストミックスを―

前橋市の3月の平均気温は、2002年と並ぶ観測史上最高の9.6度となり、暖かな初春を迎えた。桜の開花が早まり、企業の入社式や学校の入学式は満開の桜のもとで行われるなど、幸先の良い新年度のスタートとなった。

群馬では、新年度早々、期待が膨らむ出来事が続いている。県は、初の海外拠点として中国に上海事務所を開設、県内への観光誘客の促進や県産品の販路拡大、企業のビジネス展開への支援などに取り組む。また、県のアンテナショップ「ぐんまちゃん家」は、4月に新装オープンして連日にぎわう東京・歌舞伎座の向かいにあるため、来場者や県産品の販売が増えている。



群馬だけのことではないが、雇用の面でも、新年度から新たな枠組みがスタートした。改正高齢者雇用安定法が施行され、企業に65歳までの雇用確保が義務付けられた。公的年金の支給開始年齢が段階的に引き上げられるため、高齢者が再就職できないと「無年金」の期間が生じるためだ。

これを機に、県内企業の中には、スキルのある高齢者を確保しようと、積極的に雇用延長に取り組む動きがみられる。高齢者の雇用継続による若者の新規採用への影響が心配されているが、県内新卒者の就職内定率の高まりや新規求人の増加をみる限り、今のところ、マイナスの影響はみられない。

■ 県内の新規学卒者の就職内定率

	2010年度	2011年度	2012年度
高校生	88.6%	91.2%	92.0%
大学生	66.7%	70.2%	72.7%

群馬労働局「群馬県雇用施策実施方針」から
各年度1月末現在

■ 県内の新規求人数

	2010年	2011年	2012年
新規求人数	10,170人	10,773人	12,636人

群馬労働局調べ
求人数は原数値の月平均



昨年末に新政権がスタートし、首相が経済団体に労働者の賃上げを要請したこともあって、雇用だけでなく賃金も注目されるようになった。県内の今年の春闘では、一時金の増加を決定した自動車関連企業などがある。ただ、多くの中小企業では、これから対応を検討する状況にあるため、賃金全体の底上げにはそれなりの時間がかかるだろう。



県内経済の将来に明るい展望が見え始めたとはいえ、雇用と賃金を同時に増やせる企業は、今のところそう多くはない。エネルギー分野では電源の最適な組み合わせという意味で、「ベストミックス」という言葉が使われる。雇用と賃金においても、収益や従業員構成など個別の事情に応じて、企業が個々に「ベストミックス」を決めることが重要だろう。

県内経済は、持ち直しの芽が出始めている。この芽が広がり、経済の前向きな循環が生まれるには、雇用や賃金の面での改善が重要なカギとなる。新年度が、人々の期待にかなう一年となることを期待する。

（ 日本銀行前橋支店長
相良 雅幸 ）